

稲作生産情報第7号（要約）

令和8年9月9日
青森県「農林水産力」強化本部

- 登熟状況を見極めて適期に達したら速やかに刈取りしよう！
- 適期刈取りと適正な乾燥調製で良質米生産に努めよう！
- 倒伏や浸水等したほ場は、別々に刈取り・乾燥調製しよう！
- ツキノワグマ出没警報発令中なので、農作業の際は、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めよう！

1 刈取適期の予測

刈取始期の目安となる積算気温 960℃到達日は、各市町村の出穂最盛期から算出すると、津軽中央、津軽西北地域は9月10日～15日頃、県南内陸、県南中央地域は9月10日～18日頃、県南北東部地域は9月16日～28日頃、津軽半島北部地域は9月22日～23日頃、下北地域は9月23日～26日頃と予想される。

2 収穫作業の準備

コンバインや乾燥調製施設等の掃除・点検・整備や試運転は早めに実施する。

3 刈取り・乾燥・調製

刈取りに当たっては、ほ場ごとに籾の黄化程度を観察するとともに、部分刈りを行い、青未熟粒の混入割合を調査する。また、補助的な目安として枝梗の黄化程度、籾水分等も考慮し総合的に判断する。

刈取りが遅れると、胴割粒や茶米粒等の被害粒が増加して品質が低下し、その程度は遅くなるほど強まるため、収穫適期に達したら、速やかに刈取る。一方、刈取りが早すぎても、青未熟粒や死米の混入が多くなり収量・品質が劣るので留意する。

倒伏や浸水等したほ場については、別々に刈取り・乾燥調製する。

乾燥中の籾水分は、玄米水分15%を目標に仕上げる。過乾燥は、胴割粒の発生や品質・食味の低下につながるため、こまめな水分測定で適正な乾燥に努める。

米選機の網目は1.9mmを使用し、適正な流量を守り、整粒歩合80%以上を目標に調製する。

4 稲わらの処理

わら焼きの煙は、人の健康を害したり交通の妨げになるばかりでなく、誘致企業の操業や観光産業など、あらゆる社会活動の障害となる。わら焼きは絶対に止めて、水田へのすき込み・堆肥化・家畜の飼料等として活用する。



報道機関用提供資料	
担 当 課	農林水産部 農産園芸課
担 当 者	稲作・畑作振興グループ 総括主幹 鈴木 晃
電話番号	直通 017-734-9480
	内線 5073
報 道 監	農林水産部
	次長 相馬 宏伊 内線 4967